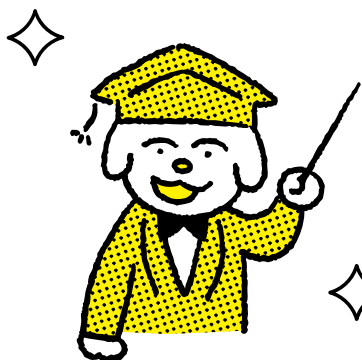


アジア文化賞 アカデミー

FUKUOKA PRIZE ACADEMY

アジア文化賞アカデミーは
福岡アジア文化賞 各受賞者の
研究内容やその活動を
より楽しく深めるための
学びと交流の機会を提供する
特別プログラムです。

2025年（第35回）
福岡アジア
文化賞受賞者



大賞



たか ら くろ よし
高良 倉吉 | 歴史学

琉球史研究の新境地を
開いてきた歴史学者

学術研究賞



べく よんそ
白 永瑞 | 歴史学

民衆の視点から東アジアを考察する
現代史研究者・思想家

芸術・文化賞



ヴォ・チョン・ギア | 建築

ベトナムからエコロジカルな建築を
実践する建築家



福岡アジア文化賞は、
アジアの学術研究や芸術・文化の分野で
顕著な業績をあげた個人や団体を顕彰する
国際賞です。

1990年に市、学界、民間が一体となって創設して以来、歴代
受賞者はこれまでに28か国・地域から130名を数え、後に
ノーベル賞を受賞された方など、世界中で活躍をされている
個人や団体が名を連ねています。

【主催】福岡市、（公財）福岡よかトピア国際交流財団



授賞式
（福岡市民ホール）



市民フォーラム
（福岡市美術館ミュージアムホール）



市民フォーラム
（アクロス福岡円形ホール）



アジア文化賞アカデミー 特別講座①
（福岡市美術館レクチャールーム）

11/8 特別講座の予習にどうぞ！

全3編

音声予習講座



「OUR CULTURE, OUR VIEW」の番外編としてお届けします。

出演者：三好 剛平（三声舎）、佐藤 ともやす



福岡アジア文化賞
公式 Youtube チャンネルにて配信中！



1時間目 高良 倉吉 編

講師：河野 俊行（九州大学高等研究院 特別主幹教授、
国際イコモス名誉会長）



2時間目 白 永瑞 編

講師：中島 隆博（東京大学東洋文化研究所所長）



3時間目 ヴォ・チョン・ギア 編

講師：岩元 真明（九州大学芸術工学研究院 准教授）

【お問合せ】 福岡アジア文化賞委員会
✉ f.prize@io.ocn.ne.jp



アジア文化賞 アカデミー

FUKUOKA PRIZE ACADEMY

特別
講座

第二弾

開催日

2025年11月8日(土)

会場 福岡市総合図書館 第1会議室

参加費 無料 ※要事前申込み

申込み 右記応募フォームより、参加希望者のお名前・年齢・お電話番号を記載のうえご応募ください

※事前に定員に達した場合はお申込みをお断りする場合がございます。



1 時限目

白永瑞 編

東アジアと人文学

開場

10:30

開演

11:00



福岡アジア文化賞 学術研究賞

ベク ヨンソ

白永瑞

現代史研究者 / 思想家



特別ゲスト

平野 啓一郎

小説家

中国～東アジアの歴史学研究のかたわら、韓国の社会評論誌『創作と批評』の編集主幹も務めてこられた白永瑞さん。氏の「東アジア」をめぐる議論において重要視されるのは、歴史を不動の事実や制度として対象化せず、動的な実践課題として取り組む「批評」的姿勢であり、また互いを理解し合おうとする「共感」の能力です。

今回のトークでは、国内外で小説家として高く評価されるかわら、芸術や社会問題などについての評論も多数執筆している平野啓一郎さんをゲストにお迎えします。お二人の対話を通じて、私たちの生きる「東アジア」からこそ描き出せる新しい人文学の可能性を探り出します。

白永瑞 | 民衆の視点から東アジアを考察する現代史研究者・思想家。1953年 韓国・仁川生まれ。1994年より延世大学の教授を務め、現代中国学会や中国近現代史学会の会長など要職も歴任。現在は同大学 名誉教授。また韓国の知的世界に重大な影響を及ぼした文学と社会評論の季刊雑誌『創作と批評』で2006年より10年間 編集主幹を担うなど、中国研究のみならず社会科学・人文科学における指導的な役割を担う。



[左]「共生への道と核心現場：実践課題としての東アジア」(法政大学出版局, 2016)
[右]「韓国・朝鮮の心を読む」白永瑞 編(クオン, 2025)

平野啓一郎 | 小説家。1975年愛知県生まれ、北九州市出身。在学中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後、数々の作品を発表し各国で翻訳紹介されている。美術や音楽にも造詣が深く、幅広いジャンルで批評を執筆している。2025年夏には、文学・芸術を論じた『文学は何の役に立つのか?』と、政治・社会を論じた『あなたが政治について語る時』を連続刊行。



[左]「文学は何の役に立つのか?」(岩波書店, 2025)
[右]「あなたが政治について語る時」(岩波新書, 2025)

こちらの1時限目は ご両者ともオンライン登壇によるイベントとなります。ご了承のうえご参加ください。

2 時限目

高良倉吉 編

沖縄と、台湾と

開場

14:30

開演

15:00

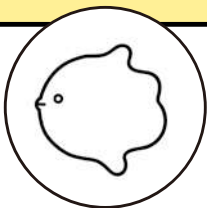


福岡アジア文化賞 大賞

たか ら くら よし

高良 倉吉

歴史学者



特別ゲスト

ガオ イェン

高 妍

漫画家・イラストレーター

15世紀の成立以来、アジアの国々と活発に交流し独自の文化を築いた琉球王国。その歴史研究を通じて沖縄のアイデンティティを探究するとともに、日本～東アジアの新たな歴史像の描出に挑む歴史学者・高良倉吉さん。

今回のトークでは台湾出身の漫画家・高妍さんをゲストにお迎えします。高さんは、台湾から沖縄へ留学した女子大生が旅先での経験を通じて、台湾と沖縄が共有する歴史や痛みと出会い、やがて“私”を取り戻していくまでを描いた漫画『隙間』(1～4巻)を今春に完結させたばかりです。

「琉球と台湾の歴史って、似てると思うんだ」—自身の実感から沖縄と台湾の歴史と文化の相似を見出した高妍さんと、高良さんの対話を通じて、“私”の視点から見つける新たな歴史像を探ります。

高良 倉吉 | 沖縄から琉球史研究の新境地を開いてきた歴史学者。1947年沖縄生まれ。1995年より琉球大学の法文学部で教授に就任。2013年より同大学の名誉教授を務める。綿密な資料分析とグローバルな歴史観、卓越した行動力や企画力を活かした琉球史研究にとどまらず、2019年からは首里城復元に向けた技術検討委員会の委員長も務める。またNHK大河ドラマの時代考証や「ピースフル・ラブ・ロックフェスティバル」への企画参加などの活動を展開する。



[左]「琉球の時代：大いなる歴史像を求めて」(ちくま学芸文庫, 2012)
[右]「琉球王国」(岩波新書, 1993)

高 妍 | 1996年、台湾・台北生まれ。イラストレーター・漫画家として日本と台湾で活動。主著に『緑の歌 -収集群像-』、『隙間』(以上KADOKAWA)などがある。その他の作品に、村上春樹『猫を養って 父親について語るとき』(文藝春秋)、『四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて』(新潮社)の装画・挿画を担当。



「隙間 (1～4巻)」
(KADOKAWA ビームコミックス, 2025)